

2009.10.09 : 平成 21 年 9 月定例会 (第 7 日目) 本文

平成 21 年 9 月招集 千葉県定例県議会会議録 (第 7 号)

平成 21 年 10 月 9 日 (金曜日)

議 事 日 程

議事日程 (第 7 号)

平成 21 年 10 月 9 日 (金曜日) 午前 10 時開議

日程第 1 議案第 1 号ないし議案第 35 号、報告第 1 号ないし報告第 4 号及び決算認定に対する質

疑並びに一般質問

日程第 2 休会の件

午前 10 時 2 分開議

○議長 (酒井茂英君) これより本日の会議を開きます。

質疑並びに一般質問

○副議長 (近藤喜久夫君) 次に、宇野裕君。

(宇野 裕君登壇、拍手)

(副議長退席、議長着席)

○宇野 裕君 植木の町、匝瑳市選出、自由民主党の宇野裕であります。同志議員の皆様方の御理解をいただきまして、9 月定例議会において質問の機会を得ることができました。心より感謝を申し上げます。平成 19 年の選挙で 4 回目の当選を果たさせていただきました。今期 2 回目の質問となります。初登壇したときのフレッシュな気持ちで質問をさせていただきたいと思っておりますので、森田知事初め執行部の皆様方の明快な御答弁を期待するものであります。また、議員の皆様方には大変お疲れのところだと思いますが、もうしばらくおつき合いのほど、よろしく願いを申し上げます。

さて、質問に入る前に、森田知事には今回の知事選に再挑戦され、100 万票を超える県民の圧倒的な支持を獲得し当選されましたことに対しまして、大変遅くなりましたが、心

よりお祝いを申し上げたいと思います。私は森田知事の誕生をうれしく思っております。その理由は、私の個人的な心情も影響しているとは思いますが、それだけではありません。前知事の後継候補を大差で破られたことは、このままでは県の発展はないとの多くの県民の思いが結実した結果ではなかったかと私は思っております。前知事の8年間は、よく失われた8年と酷評されることもあります。森田知事にこの失われた8年を少しでも取り返していただけるのではないかと県民の大いなる期待のあらわれであったとも感じております。

ここで少し長くなりますが、知事の政治姿勢の質問のために、私なりの前知事の簡単な総括をさせていただきたいと思います。

振り返れば、まことにじくじたる思いであります。私が所属する自民党はこれまでの8年間、一貫して過半数を持つ最大野党でありながら、私自身を含めて予算には賛成をしてまいりました。一方で私は一議員として、そのような政治的なバランスを保ちつつも、平成14年12月県議会の自民党代表質問、あるいは一般質問を通じ、このままでは千葉県は本当におくれてしまうという危機感から、納得がいかない前知事の政策や政治手法に対して一貫して厳しい態度で臨んでまいりました。

その理由は幾つかあるわけですが、以下3点に絞って指摘したいと思います。

第1点目は、前知事は言っていることとやっていることが違う言行不一致であったということにあります。それが象徴的にあらわれたのが三番瀬問題であります。前知事は1回目の選挙の際、三番瀬埋め立ての白紙撤回を事実上、唯一最大の公約として選挙戦に臨み、当時、公共事業は何でも悪いんだというマスコミの風潮に乗って、ふわふわと当選をされました。しかし、前知事は8年間、三番瀬について4億円以上も使って、議論のための議論や調査を延々と繰り返すだけで、三番瀬の再生に向けた知事としての決断をついにしななかったのであります。一種の不作為の行政ではないかと言う人もいらっしゃいます。

さらにそれだけではなく、平成18年11月に国から羽田空港第4滑走路の建設のための埋め立ての同意を求められた際、三番瀬と同じ東京湾の一部である羽田沖の埋め立てでありながら、同年12月にあっさりとこれに同意し、さらにその埋め立てに必要な砂を確保するため、県内の緑豊かな山からの土砂採取の許可についても、あっさりともこれも許可をしてしまったのであります。

つまり自然は絶対に守っていかなければならないと標榜する一方で、同じ東京湾という自然の一部を消滅させる行為や県内の自然の山の形状を変える行為を簡単に認めてきたのであります。わかりやすく言えば、三番瀬の保全と再生は私の公約なので、皆さん、よく考えてくださいと言っている一方で、羽田は千葉ではないし、土砂採取による自然に手を加える行為は公約ではないから、どうぞやってくださいと言っているようなものであります。これは県民にとって極めてわかりにくい論理であり、まさに言っていることとやっていることが正反対の例だと言えるのではないのでしょうか。この典型的な例に見られる前知事の行動と発言の矛盾は、そのほかの諸施策の推進力や部下の士気に大きなマイナスとし

で働いてきたものと私は評価しているのであります。

2点目は、計画性のない場当たり的な県政運営を進めたということであります。前知事が初当選されたときは、その前年度に策定された新世紀ちば5か年計画が総合計画として位置づけられておりましたが、前知事は、変化の激しい時代にあって、このような5か年計画では変化に対応できないとして事実上計画を棚上げし、以降、毎年度アクションプランを策定し施策を展開してまいりました。その説明には一見理があるようにも思えますが、毎年度策定されることから諸施策もその都度変わってしまい、千葉県は厳しい中にあっても、このような施策をぶれずに進めていくという思想が全く見られない、極めてわかりにくいものでありました。その場その場の前知事の関心事が主要施策と位置づけられたものだったと言えます。

私は変化が激しく、財政的にも厳しい時代であればこそ、県民に対し、県として最低限このことはやりますということを約束していくために総合計画は必要であるという視点に立ち、再三質問してまいりましたが、最後まで議論はかみ合いませんでした。幸い森田知事は当選後、早い段階で総合計画の策定を指示されました。森田県政をわかりやすく県民に示し、実現していく計画となることを大いに期待しているところであります。

第3点としては、偏った考えに基づいた行政運営を続けてきたのではないかとということであります。前知事は白紙の段階から県民の主体的な参加による県政運営を標榜し、千葉方式と称してタウンミーティングや当事者が参加する県民会議を繰り返し、施策の立案と展開を進めてきました。しかしながら、そこに集まってきた県民は、それぞれの政策課題に大きな関心を持ち、大きな声を上げる方たちや利害関係にある方がほとんどであったように聞いております。私は行政で大切なことは、大きな声の人の意見を聞くことではなく、声を出そうとしても出せない人の声をいかに集めていくか、声を出さないごく平均的なサイレントマジョリティーの声をどのようにつかむかということにあるという視点から前知事の姿勢をただしてまいりましたが、結果として、県が主体的に判断することなく、そのような一部の方の意見で県政が動かされることは大きな問題であると思っておりました。

このような問題意識を前知事に抱いておりましたが、ここに新しく森田知事をお迎えすることができました。冒頭に申し上げましたとおり、私はこの失われた8年とも言える時代を一刻も早く取り戻し、まさに知事のおっしゃる日本一の千葉県の実現に大いに期待するものであります。

そこでお伺いいたします。

第1点として、失われた8年とも言われる前政権に対する知事の評価はどうか。

第2点として、今後4年間でどのように失われたものを取り戻していくのか。

第3点として、選挙におけるmanifestoの今後の具体的な推進とその評価をどのように行っていくのか。

第4点として、現在、今後3年間の総合計画、財政健全化計画、行政改革計画の策定作業をしていると聞いているが、どのような理念でこれらの計画を進めようとしているのか。

次に、千葉県地域医療再生プログラムについてお伺いいたします。私の質問の内容の一部、ただいま質問されました礒部議員の質問と重なる点がありますが、角度を変えて質問をいたします。

県民の命と健康を守る上で、地域医療の再生は県政の喫緊の課題であります。平成 16 年度から導入された新医師臨床研修制度の影響をもろに受け、医師の確保に苦慮している自治体病院の行く末は、その地域に暮らす人々にとって一番の関心事であり、その再生、充実が切実な願いであります。特に有力な民間医療機関の少ない東総地域では、匝瑳市民病院を初めとする自治体病院の再生なくして県民の命と健康を守ることはできません。

私は前政権のもと—これは国のことではありますが、追加経済対策の一環として、去る 5 月 29 日に全国規模で 3,100 億円の地域医療再生臨時特例交付金制度を創設しました。対象事業は、2 次医療圏単位の医療機能の強化、医師等の確保、救急医療の確保など、地域医療の課題解決を図るために必要な事業であれば、ソフト、ハード、いずれの面でも地域の実情に応じて自由に決定することができ、都道府県において地域医療再生計画を策定し、国の採択を受けることとされております。

本県においては、本年 9 月 2 日に開催された千葉県医療審議会において、地域医療再生計画の対象地域を香取海匠地域と山武長生夷隅地域とする方向性が示され、さらに同 9 月 30 日に開催された本年度 2 回目の医療審議会においては、事務局から提示された計画案の内容について、おおむねの理解が得られたと伺っております。私の住む香取海匠医療圏、とりわけ東総地域では、東庄町を含めた 3 市 1 町で平成 17 年度から東総地域医療連携協議会を設置し、急性期医療を担う旭中央病院を中核とし、周辺の 3 つの自治体病院の連携体制の構築に向けて協議を重ねてきた結果、現在、一部の病院で連携が進んできたところですが、このたび県から示された地域医療再生計画案を見ると、国に提出することとなる千葉県地域医療再生プログラムの対象地域として香取海匠地域がエントリーされており、深く感謝を申し上げる次第であります。

現政権の民主党は、きょうの NHK を初めとする各種報道によりますと、当該基金も含めて補正予算の基金の一部凍結を検討しているようでありますが、よもや地域の医療体制が崩壊の危機に瀕している中、国民の命と健康を守るこの事業に手をつけることはあるまいと期待をしているところであります。もしこの事業に手を入れるとすると、民主党の国民の生活が第一との公約がむなしく響くことになるのではないのでしょうか。このような国レベルでの不確定な要素を残していることを前提として 2 問質問いたします。

第 1 点として、千葉県地域医療再生プログラムの対象地域はどのような考え方から選ばれたのか。

第 2 点目として、各地域における具体的な事業実施までの今後のスケジュールはどのようになるのか。

次に、農業問題についてお伺いいたします。

農業問題の 1 点目は、農業水利施設の老朽化についてであります。

本年6月20日午前10時、東庄町にある国営農業水利施設の大利根用水施設の一部である笹川用水機場に設置されておりますポンプ3台のうちの1台、三郎という名前で親しまれているポンプから白煙が出たため、緊急停止を余儀なくされました。この故障の経過と見通しについて、海匠農林振興センターから説明を受けたのでありますが、そもそも笹川用水機場のポンプは昭和53年に設置した施設で、完成後30年以上経過し、耐用年数の20年を大きく超えているとのことでありました。私は、建物も機材も老朽化が激しいことから、今回の故障は決して偶然ではなく、起こるべくして起こった事故ではないかと考えるを得ませんでした。また、ポンプを取り外し愛知県の工場まで搬送して調査した結果、修理には半年以上かかるとのことでありました。また、これからの1カ月間は、稲の成長にとって水の供給は欠かすことができない大切な時期でもあるので、通常は3台のポンプで利根川の水を供給するのだが、ことしは残った2台のポンプをフル稼働させて何とか乗り切りたいとのことでありました。ことしの米の作柄には幸いにも大きな影響は出なかったところではありますが、私は今回の事故を契機に、改めて土地改良施設の老朽化対策の必要性について考えさせられたのであります。

そもそも土地改良事業で造成された用水・排水施設などの基幹的水利施設は、農業生産の効率化と農業の安定的経営を進めるために必要不可欠な施設であり、本県の農業産出額全国第2位を今後も維持し、さらに向上させるためには大きな役割を果たしていると私は認識しております。しかしながら、県の説明によりますと、土地改良事業の大半が昭和40年代から50年代に集中しており、現在ではその基幹施設の老朽化が問題となっているとのことでありました。たまたま今回の事故を起こした笹川用水機場は、私の地元の海匠地域における基幹的農業水利施設であり、県内でも屈指の大利根用水の施設の一部であります。この大利根用水は国営事業で昭和45年から平成4年にかけて造成されたもので、東金市の面積を超える9,200ヘクタールという広大な面積に対し、3カ所の用水機場、1カ所の排水機場を擁し、用排水路の総延長は71.1キロメートルにも及ぶ施設であります。

今回の事故はほんの一例かもしれませんが、県内には両総用水や成田用水初め多くの大規模用水、排水施設、さらには農業用ダムもあります。また、加えて県内の各改良区内には、縦横に張りめぐらされた膨大な用水路、排水路もあります。さらに、これら基幹施設は農業施設であると同時に、大雨などの際には防災上の観点からも重要な役割を果たしているところでもあります。私が今回このことについて質問させていただくのは、常日ごろの危機管理の徹底が必要であり、大きな問題となってからは手おくれではないかということ強く思うからであり、また、今回の事故はその警鐘なのではないかと考えるからです。

そこでお伺いいたします。

第1点として、本県における基幹的な農業水利施設の老朽化の状況はどうなっているのか。

第2点として、今後、施設の老朽化にどのように対応していくのか。

農業問題の2点目は、樹木の病害虫による被害についてであります。

九十九里浜の松林は多大な労力と長い年月をかけ、育成、整備されてきました。この松林は、日常的に潮風や飛んでくる砂から内陸側の民家や農作物等を守り、台風や高潮など災害の緩衝地帯として、地域住民の安心・安全な暮らしのため、極めて重要な役割を果たしております。その松林が、ここ数年の間に松くい虫の被害等により大量の松枯れが発生し、見るも無残な状態になっております。住民の安全・安心な暮らしを守るとともに、千葉県の誇る雄大な九十九里浜の景観を保全するためにも、これら被害を未然、あるいは軽微な今の段階から松林の復旧、再生を図る必要があるのではないのでしょうか。

また、本県は全国屈指の植木生産地として知られており、中でもマキはすぐれた造形技術により、本県植木の中心品目でもあります。しかしながら、近年、マキの主要産地である私の地元匝瑳市において、ケブカトラカミキリの被害が発生していると聞いております。マキは県の木として、庭木や垣根として広く親しまれており、対応のおくれで被害が蔓延すると、生産面だけでなく、植木の輸出にも大きな影響を及ぼすおそれがあることから、迅速に対策を講ずる必要があるのではないのでしょうか。

そこでお伺いいたします。

第1点として、松くい虫の最近の被害状況はどうか。また、今後どのような被害対策を講じようとしているのか。

第2点として、ケブカトラカミキリによるマキの被害状況はどうか。また、今後どのような被害対策を講じようとしているのか。

次に、道路問題についてお伺いいたします。

銚子連絡道は山武市と銚子市を連絡する概略延長30キロの地域高規格道路で、将来は圏央道や千葉東金道路と結ばれるものであります。すなわち、この道路は私の地元匝瑳市を初めとする東総地域と県内各地域や首都圏とを結び、さらには全国の高速度道路ネットワークを構成するものであり、東総地域における魅力ある個性豊かな地域づくりに貢献するものとして、地域住民が早期実現を待ちわびている道路なのであります。

また、東総地域には、全国屈指の地域医療の中核であり、診療圏人口100万人を誇る旭中央病院があることから、この道路は山武地域や長生地域からの救急搬送のための重要な道路であり、住民の生命を守る、いわば命を運ぶ道路であると、私は地元において、この道路の重要性を説明してまいりました。しかしながら、国において、今年度から道路整備に係る財源について一般財源化がなされ、また、民主党は揮発油税などの暫定税率を廃止する方針との報道がなされる中、我が党の木名瀬議員の代表質問などでも取り上げられましたが、今後の道路整備に必要な財源が確保できるのか、午前中の江野澤議員の質問にもありましたが、館山道の4車線化も凍結されようとする中で、私たち県民にとって真に必要な道路がこれからも着実に整備が進められるのかどうか、私も大変懸念をしております。とりわけ東総地域にとって、間違いなく真に必要な銚子連絡道路は、今までどおり着実に整備を進める必要があると私は考えております。

そこでお伺いたします。

第1点として、銚子連絡道路の事業化を図った横芝光町から匝瑳市間の現在の状況と今後の進め方はどうか。

第2点として、銚子連絡道路は真に必要な道路と考えるが、どうか。

以上で1回目の質問とさせていただきます。御清聴ありがとうございました。(拍手)

○議長(酒井茂英君) 宇野裕君の質問に対する当局の答弁を求めます。知事森田健作君。
(知事森田健作君登壇)

○知事(森田健作君) 自民党の宇野裕議員の御質問にお答えします。

政治姿勢についてお答えします。

前政権に対する知事の評価はどうか。また、今後4年間でどう対応するのかとの御質問でございますが、前知事は本県初の女性知事として、記者や国会議員であった経験を生かし、熱意を持って千葉県政を運営されたと思います。一方で、議員の御指摘のとおり、アクションプランの策定等に見られるように、県の重要施策の方向性が一貫しないなどといった厳しい評価があることも承知しております。私は、本県が持っているポテンシャルを最大限に生かしながら、チームスピリットを発揮して日本一光り輝く千葉県を目指し、次世代に誇れる千葉県を築いていくために政策を行うことが大切だと、そのように考えております。このため、現在、県の最上位の計画となる総合計画案を策定していますので、これを基本に着実に取り組んでまいりたいと、そのように思っております。

選挙におけるマニフェストの今後の具体的な推進とその評価をどのように行っていくのかとの御質問でございますが、マニフェストには中長期的に推進する施策と短期的に推進する施策とがある中で、アクアライン通行料800円化など、既の実現したものもございますが、今後は、現在策定を進めている総合計画案などを盛り込むことでマニフェストの着実な推進を図ってまいりたいと、そのように思っております。また、マニフェストの評価については、その手法や公表時期などについては今後検討してまいりたいと思います。

私からは以上でございます。他の問題につきましては担当部局長からお答えをさせていただきます。

○議長(酒井茂英君) 総合企画部長小川雅司君。
(説明者小川雅司君登壇)

○説明者（小川雅司君） 私からは知事の政治姿勢についてのうち、知事答弁以外の1問につきましてお答えを申し上げます。

総合計画や財政健全化計画、行政改革計画の策定作業をしていると聞いているが、どのような理念で進めていくのかという御質問でございます。急速な少子・高齢化の進行や世界同時不況の発生など、本県が直面している困難な課題を乗り越え、光り輝く千葉を築き、次世代に確実に引き継ぐことを目指して、本県のあるべき姿とこれを実現するための取り組みを示す総合計画を策定いたします。そして、この総合計画を着実に推進していくために財政健全化計画及び行政改革計画を策定いたしまして、必要な行財政基盤を確立したいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（酒井茂英君） 健康福祉部長戸谷久子君。

（説明者戸谷久子君登壇）

○説明者（戸谷久子君） 私からは千葉県地域医療再生プログラム関連の2問につきましてお答えいたします。

まず初めに、千葉県地域医療再生プログラムの対象地域はどのような考えから選ばれたのかとの御質問です。県では、千葉県地域医療再生プログラムの策定に当たり、千葉県医療審議会に本県の地域医療の現状や課題などを説明した上で計画策定の方向性、対象地域、具体的な事業内容等を審議いただいたところです。そのうち対象地域となる医療圏については、1つとして、医療供給体制が危機的な状況にあり、県民や国民の関心が高い医療圏であること、2つとして、近年、地域医療の再生に向けてさまざまな議論が始まっている医療圏であること、3つとして、5年の間に地域医療の再生が必ず実現し、その成果を他の医療圏でも活用、普及できる医療圏であることなどの視点から検討いただきました。その結果、圏域内の医療機関の役割分担や機能再編が急務となっている香取海浜保健医療圏と、救急医療体制が極めて脆弱な山武長生夷隅保健医療圏が対象地域として選定されたところです。

次に、各地域における具体的な事業の実施までの今後のスケジュールはどのようになるのかとの御質問でございます。県では、現在、千葉県医療審議会の審議結果を踏まえながら、関係機関等と千葉県地域医療再生プログラムの策定に向けた最終調整を行っているところでございます。今月中旬までにプログラムを策定し、国に提出する予定ですが、その後は国において有識者による協議会の審査を経て、採択するかどうかを決定することとされております。なお、本県のプログラムが採択された場合には、今年度末までに県で基金を設置した上で、国からの交付金を受け入れ、平成25年度までの間に具体的な事業を実施

することとなります。先月末に開催された2回目の医療審議会では各委員の方々から、千葉県にとって大変重要な計画であり、ぜひ実現してほしいとの多くの声がありました。今後、本県の事業が国に採択されるよう最大限の努力をしまいたいと考えております。

以上でございます。

○議長（酒井茂英君） 農林水産部長依田茂君。

（説明者依田 茂君登壇）

○説明者（依田 茂君） 私からは農業問題の4問についてお答えいたします。

まず、本県における基幹的農業水利施設の老朽化の状況はどうかとの御質問でございますが、県内にある基幹的農業水利施設は976施設あり、このうち耐用年数を超えているものは平成20年度末で全体の54%、530施設でございます。また、今後5年以内に耐用年数を超えるものも106施設あり、5年後には全体の65%に当たる636施設が耐用年数を超えることとなります。

次に、今後、施設の老朽化にどのように対応していくのかとの御質問でございますが、基幹的農業水利施設は安定的な食料供給基盤として重要な役割を担っていますが、更新時期を迎える施設が急増し、今後、更新費用の増大が予測されております。このため機能診断を行い、老朽化の著しい施設については施設規模に応じ、国営かんがい排水事業や県営かんがい排水事業等により更新整備を行ってまいります。また、部分的な補修により長寿命化の図れる施設につきましては、ストックマネジメント事業等の活用により維持管理コストの低減や更新費用の平準化を図ることとしております。

次に、松くい虫の最近の被害状況はどうか。また、今後どのような被害対策を講じようとしているのかとの御質問でございますが、松くい虫被害はここ数年、4,000から5,000立方メートルで推移し、昭和56年のピーク時と比較しますと約10分の1まで被害量は減少していましたが、平成20年度は九十九里海岸を中心に7,800立方メートルの松枯れが発生しました。このまま被害が拡大すると、高潮などの災害時に地域住民の安全を確保することはできなくなるばかりか、白砂青松の景観も失われることとなります。今後は綿密な調査のもと、効果的な薬剤防除と被害木駆除の徹底を図るとともに、本県の風土に合った、より抵抗性の強い苗木の育種に取り組んでまいります。

最後に、ケブカトラカミキリによるマキの被害状況はどうか。また、今後どのような被害対策を講じようとしているのかとの御質問でございますが、マキは県の木として庭木や垣根など、広く県民に親しまれているとともに、全国第2位の生産を誇る本県の主要植木であり、近年、急速に拡大している植木輸出の約95%を占める重要な品目でございます。ケブカトラカミキリは屋久島や種子島等、九州が主な生息地であり、マキの樹木内に侵入、

食害し、枯死に至る被害を及ぼします。本県での被害は平成 20 年 11 月に初めて確認され、本年 8 月の調査では匝瑳市や横芝光町の植木生産ほ場や一般住宅の垣根等 20 地点、約 200 本となっており、被害地域が限定されているうちに早期の対策が必要であると考えております。このため、県では新たな緊急防除事業として、1 つとして、被害状況調査及び住民、生産者に対する被害対策の啓発、2 つとして、被害木の伐採及びチップ化、焼却等による樹木内の害虫駆除を実施するとともに、4 月から 6 月の成虫防除を目的とした薬剤散布など、市町村と連携しながら県の木マキの被害対策を講じてまいります。

私からは以上でございます。

○議長（酒井茂英君） 県土整備部長橋場克司君。

（説明者橋場克司君登壇）

○説明者（橋場克司君） 道路問題についてお答えいたします。

銚子連絡道路の事業化を図った横芝光町から匝瑳市間の現在の状況と今後の進め方はどうかという御質問でございます。銚子連絡道路二期事業につきましては、国道 126 号横芝光町から匝瑳市までの延長約 5 キロメートル区間を整備することとし、平成 19 年度から事業に着手しております。これまでに測量や調査、設計などを実施しており、これに基づきまして、現在、設計協議を進めております。今後は地元地権者の皆様や関係機関などの御理解、御協力を得ながら、早期完成を図れるように事業推進に努めてまいります。

次に、銚子連絡道路は真に必要な道路と考えるが、どうかという御質問でございます。銚子連絡道路は首都圏中央連絡自動車道などの高規格幹線道路と一体となって機能し、山武・東総地域と首都圏や県内各地域との連携を図る地域高規格道路です。この道路は本県にとりまして、交通の利便性向上による産業振興や地域医療の支援など、地域の活性化を図る上で極めて重要な路線であると認識しております。このようなことから、今後とも本道路の早期全線供用を図るため、道整備交付金事業なども活用しまして着実に整備を進めてまいります。

以上でございます。

○議長（酒井茂英君） 宇野裕君。

○宇野 裕君 御答弁ありがとうございました。少し時間がありますので、要望、質問をさせていただきたいと思っております。

最初に要望であります。先ほど海岸の松くい虫、植木のマキの病害虫対策についてお答えをいただきましたが、そのほかにも溝腐れ病による被害が非常に大きいサンプスギの問題、また、最近になって顕在化してきたスギカミキリの問題等、県内各地で森林の荒廃が進行していることは、部長はよく御存じのことと思います。地球温暖化防止等、世界的な環境問題に対処するためにも、また身近な緑を保全するためにも、森林樹木の被害対策について予算化を含め、早急な対応をお願いしたいと思います。

次に、質問をさせていただきたいと思います。1回目の質問で、私は堂本前知事時代の8年間を振り返り、私なりの評価をさせていただきましたが、私は、おやめになって、もうここにはいらっしやらない前知事を改めて批判しようとしてお伺いしたではありません。そういう気持ちではなくて、先ほど申し上げましたが、森田知事は前知事の後継候補として二人三脚で選挙戦を戦った候補者を圧倒的な大差で退けたわけであり、私は、今こそ、これまでの県政を総括して、森田新知事の視点で問題点を洗い出して、改めるべきことはきちんと改めていくことが必要であると思っております。そして、その作業を早期に終了して、一刻も早く新たな森田丸の本格的な船出を図っていかなくてはならないという考えに基づきまして、今回知事のお考えをお尋ねしたわけでございます。

さて、知事、この議会が終わりますと、県では本格的な来年の予算編成が始まります。今年度は当初予算が骨格予算であったとはいえ、前知事が編成されたものであり、前知事の思いも残された予算であったと思います。新年度予算は森田知事が初めて編成する通年型の予算となります。私は前知事の進めた施策を徹底的に検証、点検した上で、改めて森田知事の政治理念を反映させたものとして編成していくことを強く願うものであり、知事の強いリーダーシップを期待するものであります。

そこで、この点について改めて知事の御決意をお聞かせ願いたいと思います。

2回目の質問を終わります。

○議長（酒井茂英君） 知事森田健作君。

○知事（森田健作君） 新年度予算についての私の決意との御質問でございます。確かに新年度22年は私の初めての森田予算でございます。しかし、議員御案内のとおり、千葉の財政は大変厳しいところでございます。しかしながら、私は無駄を徹底的に省きながら、やるものはやると、そういう二輪車で私は暮らし満足度日本一を実現するように頑張りたいと思います。国の予算の動向も、現在、大変不透明でございますが、私はリーダーシップを持って、そして県民の皆様にとって、よりよい予算をつくってまいりたいと、そのように思っております。

○議長（酒井茂英君） 宇野裕君。

○宇野 裕君 ありがとうございます。知事の今の来年度予算編成に向けての力強い御決意、お答えを拝聴いたしまして大変心強く思いました。その方針でしっかりと進めていただきたいと思います。

最後に要望をさせていただきたいと思います。今議会では不正経理問題について多くの議員の方が質問をされました。県民からも多くのおしかりのメールや電話等が届いているということですが、それを一覧にしたものが本庁舎の玄関を入ったところに置いてあります。また、県庁の職員向けのホームページにも掲載されております。私もその一部を見せていただきました。本当に厳しい御意見ばかりでありました。反面、この問題の解決に向けた知事のリーダーシップに期待する県民の声が非常に多いのを見て、私は本当に心強く思ったわけであります。

ここに代表的なものを御紹介したいと思います。そのまま読ませていただきます。森田健作知事様、今回の公金不正使用につきまして、迅速な対応をしてくださり、かつマスクミなどでも県民の立場に立った毅然とした発言をしていただいていることに関し、深く感謝しております。森田健作知事は就任して日も浅く、その意味で職員とのしがらみや利権的な関係性がないと思われるため、より毅然とした対応ができるものと期待しております。今回の公金不正利用に関して厳正に取り組むことは全県民の利益にかなうことであり、知事の最も重要な業績になると思われれます。県民の1人として大きく期待するものです。どうぞよろしく願いいたしますという県民のメッセージであります。知事もぜひごらんをいただきたいと思いますが、このような知事に対する県民の期待があふれております。

この問題の早期解決はもちろんのことでありますが、このような県民の思いを背負って、今後の県政全般について知事の強いリーダーシップを期待して、私の質問を終わりとさせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

○議長（酒井茂英君） 以上で質疑並びに一般質問を終結いたします。
